

創業100周年で記念式典



黒瀬晃会長兼社長

ジャパンパイルは11月22日、都内で創業100周年記念式典を開いた。取引先や協力会社などから約600人が出席し、100周年の節目を祝った。ジャパンパイルの前身であるジオトップが武智工務所として創業してから100周年にあたる。式典会場前にはパイルでジャパンパイルの歴史や同社の開発技術、施工実績や海外展開などを紹介するパネルを展示した。11月7日には大阪市内で同式典を実施しており約450人が出席。同日とも特別講演として落語家の春風亭小朝さんが登壇し、一席披露した。

式典冒頭、黒瀬晃会長は「杭基礎は何かという質問に答えてくれる。当社は、前年、武智工務所の創業から身となるそれぞれの会社、メンツのお取引をさせて頂き、アメリカやイギリス、フランス、ドイツ、イタリアなどでも特許を取得している。34年には大同コンクリート工業が原安三郎により創業され、日本初の遠心成形によるコンクリート杭（RC杭）の製造を開始。ヨーコンは58年に新谷泰助により「大洋コンクリート工業」として創業しており、75年に場所打ち杭部門を開設した。2005年にはジオトップ、大同コンクリート工業、ヨーコンの3社が共同で株式を移転し、総合基礎建設会社としてジャパンパイルが発足。10年にはベトナムの大手杭会社フアンブー社と資本提携し、13年に連結子会社化、15年にはミャンマーにVJP社を設立し、同年、日本とベトナム、ミャンマーの各国に事業会社を配置した持株会社体制に移行し、アジアパイルホールディングスが発足している。

「命を守る基礎を実現」

11月に東京、大阪で

が培ってきた命を守る基礎を実現したいという志を持ち続け、これからも基礎建設の発展に尽くしていきたい」と述べた。多数の来賓が出席するなかで、来賓を代表して太平洋セメントの不死原正文社長と三井住友銀行の中島達代表取締役副頭取執行役員があいさつし、100周年も助け合い



都内での式典の様子